

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ホテル業概論 Introduction to Hotel Business		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	観光ビジネス実務士必修	全学生、観光フィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光学概論、観光ビジネス実務演習				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
観光学概論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
伊藤 優子	授業中に指示します	水曜日、木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
観光産業の中で宿泊業は不可欠な関連産業である。ホテルは宿泊することだけが目的でなく、食事、婚礼、地域や企業の集会、宴会など様々な場面で情報発信している。基本的な知識を構築し、関連部門を詳細に学ぶ。また東京都内でのホテル実地研修を実施し、講義で学んできたことをホテルの生の現場とホテルマンからの講義により理解を深める。ホテル研修は受講者全員が参加必須とする。				
授業の目標				
①ホテルとは何か、ホテルの基本的知識を習得できるようにする。②ホテルの歴史を把握できるようにする。③ホテルの現状と特性を把握できるようにする。④ホテル実務、ホテル部門の理解を深めることができるようにする。				
授業の方法				
教科書を中心に、ホテル関連部門、それぞれの業務、ホテルの歴史、国内外のホテルの現状などを講義形式で実施する。最終的にホテルでの実地研修を行い、現場での業務を実践的に学ぶ。				
学習の成果（学習成果）				
①ホテルの仕事の流れを把握し、顧客への確に対応できる。②積極的にコミュニケーションをとり、円滑に対処できる能力を身につけることができる。③ホテルの現状を把握し、ホテルマーケティングの感覚を身につけることができる。④ホテル業界が目指すインバウンドに対する学習を深め、将来のホテルにおけるあり方を創造的に考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ホテルの語源 ホテル業の基本的な性格			
第2回目	欧米におけるホテルの歴史			
第3回目	日本におけるホテルの歴史			
第4回目	ホテルの分類 経営特性			
第5回目	ホテル実務の基本とホスピタリティ			
第6回目	ホテルと旅館の違い 旅館業の基礎知識			

第7回目	宿泊部門の概要	
第8回目	料飲部門 調理部門の概要 レストランの種類	
第9回目	宴会部門の概要	
第10回目	ブライダル部門の概要 ブライダル付帯サービス	
第11回目	日本のホテルの現状 外資系高級ホテル ビジネスホテル	
第12回目	海外のホテルの現状 リゾートホテル タイムシェア	
第13回目	ホテル実地研修[以下、都内有名ホテルでの日帰り研修(7月頃実施予定)を行い、現役ホテルマンの講義、実践的な研修から実務能力を高める内容となっています](施設見学)	
第14回目	ホテル実地研修(ホテルスタッフの動き、ホテル業務)	
第15回目	ホテル業のまとめ	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度		30%
レポート		10%
調査報告書		
小テスト		
試験		50%
発表内容(態度含む)		
その他		10%
教科書と参考図書		
ホテル概論(JTB総合研究所)		
履修上の留意点・ルール		
遅刻厳禁。私語はつしむこと。授業途中で無断で退出厳禁。携帯電話使用禁止。飲食厳禁。ホテル実地研修(日帰り)は全員参加が必須、都内有名ホテルで7月頃実施予定、日帰り研修費用は実費負担となります。		